



仁和だより 特別号

令和5年3月3日
京都市立仁和小学校
校長 鳥屋原 学

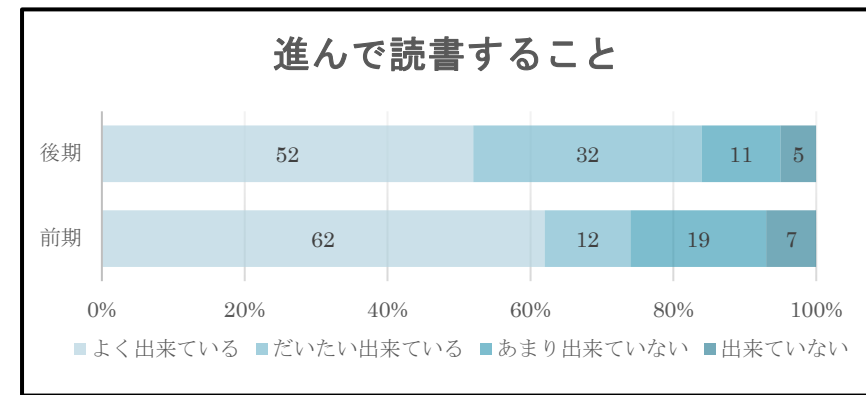
仁和小学校 学校教育目標 自ら学び 自ら律し 未来に向かってたくましく共に生きる子の育成

学校評価アンケート後期結果

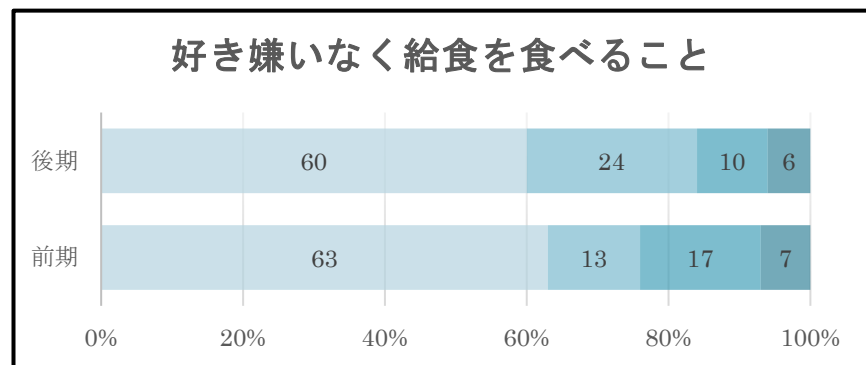
弥生の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校教育推進のため、ご理解・ご協力をいただき、感謝しております。

保護者の皆様には、お忙しい中、1月末に「令和4年度後期学校評価アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。児童は前期と同様、個々のタブレット端末を用いて回答しました。その集計結果を報告させていただきます。今回は、特に変化が見られた項目について実態を考察し、課題については、改善策を考えていきたいと思います。

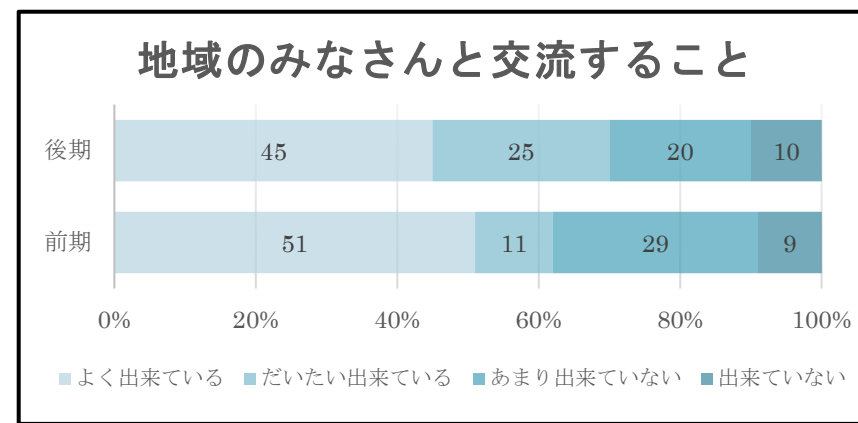
<児童アンケートの結果より>



前期に比べ、「よく出来ている」が減っていますが、「出来ている」と答えた児童と合わせると10%増えました。今年度より、取り組みを始めた毎月16日の「ゆめいろ読書デー」や再開されたPTAの図書ボランティアの方々の読み聞かせの成果が表れ始めていると感じています。ご家庭でも、月一度の「ゆめいろ読書デー」に、お子達と本について話をされてみてはいかがでしょうか。

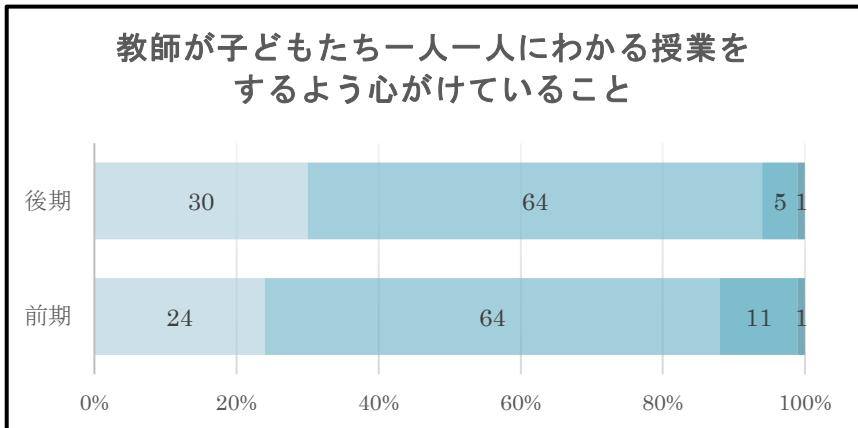


今年度に入り、パーテーションを設けてですが、クラスごとに広くて開放的なランチルームで給食を食べる機会を増やし、食の指導を進めてきました。2月には、給食週間の中で、調理員さんが給食を作る様子をビデオで見たり、給食委員会の子どもたちによる給食クイズに取り組んだりして、食について考えました。今後も、給食の中で五感を使いながら、様々な食べ物のよさを感じて欲しいです。

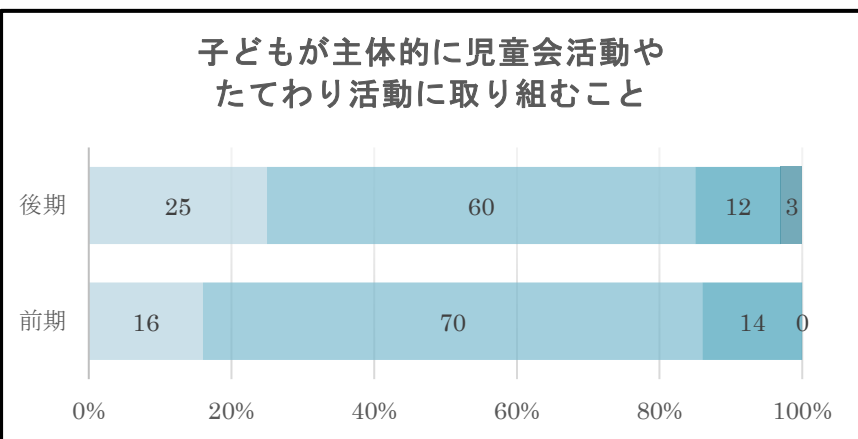


今年度は、地域の方にゲストティーチャーに来ていただいたり、2学期以降、商店街に出かけて生活科の学習やきらめき学習をする機会が増えたりしたこと等が、結果に表れたようです。コロナ禍にも関わらず、ご協力いただいた地域の方々、本当にありがとうございました。

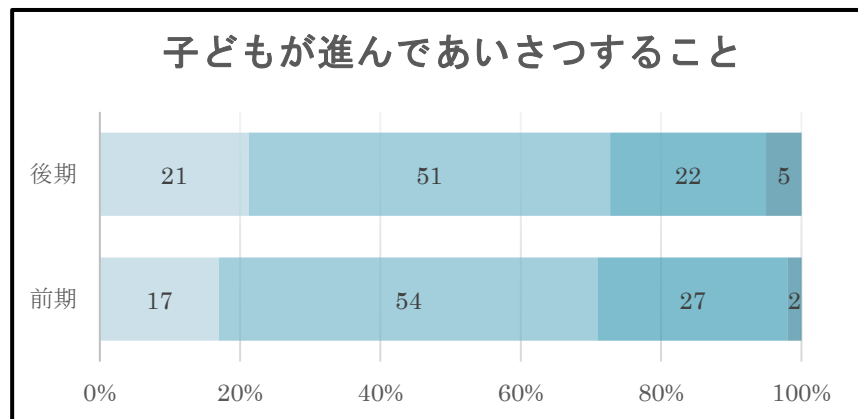
<保護者アンケートの結果より>



前期に比べ、「よく出来ている」と答えていただいた保護者の方が少し増えました。3年生以上では、国語と算数の教科担任制を今年度取り入れ、授業参観でも見ていただきました。今後も、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に取り組んでいきたいと思っています。



月に一度のたてわり掃除やたてわり遊びに今年度は、取り組みました。1年と6年、2年と4年、3年と5年の兄弟学年で活動してきましたが、上の学年がよい手本となり、リードしています。今後も、子どもたちが、主体的に関われるような取り組みを進めていきたいと思っています。



特に朝の登校時の子どもたちのあいさつは、進んではできていない実態があります。気持ちのよいあいさつは、相手も自分も元気にしてくれます。周りの大人が、よりよい手本を見せることで、気持ちのよいあいさつをすることの大切さを継続的に伝えていきたいと考えています。

<自由記述欄より(一部抜粋)>

教科担任制について【児童より】

○色々な先生から教えてもらうのは、楽しい。 ○変わることに、やり方が違うからいい。

○中学から始まる教科担任制を経験できたからよかった。 ○担任が代わっても、全然気にならない。

○中学校からどうなるか、担任の先生が代わっても、いつも通りにすればいいということがわかった。

○よりそれぞれの学習に専念して教えてもらえるように感じる。

○違う先生だとあまり慣れない。 ○授業開始が遅れることが多かった。

○教え方が全然違って、少しわかりにくい。 ○同じ先生のほうがやりやすい。

教科担任制について【保護者の方より】

○いろんな先生に出会えること、たくさんの目で見ていただくことの良さを感じています。

○教科ごとにより良い学習が出来る反面、クラスの子どもの特性や日常の友達関係など、授業内容以外の事も含めると小学校のうちは主要科目は、クラス担任の先生にお任せしたいところかと思います。

○担任の先生だけでない関わりがあるので、子どもも楽しく話をしてくれます。

○中学校からは、教科担任制になるので、先生ごとに教え方が違うというのを子どもが上手く言葉にできないけれど少しずつ実感しています。色々な先生がいて、教え方も人によって違うということを体験しているようです。そういう意味でも、教科担任制は面白い取り組みだと思いました。

○違和感は、ないみたいです。担任と違う先生の授業で、緊張感もあって子どもにいい影響があると思います。

○発表するのに少し戸惑うところがあったみたいですが、慣れてきたみたいで安心しました。

○担任の先生との共有する内容は、しっかりと連携しておいていただきたいと思います。

○学年の学力差がなくなるので、いい取組だと思います。

○全教科を通して子どもの成長を見てもらえる小学校教育の良さを残してもらいたい。

⇒**たくさんのご意見をありがとうございました。子どもたちが、安心して教科担任制の授業を受けることができるよう、情報共有しながら、また改善しながら進めていきたいと考えています。**

コロナ禍における教育活動について

○コロナ禍で制限ある中ですが、今年度は地域との交流が多く、校外学習にも行けたことを感謝しています。

○コロナを理由に色々な無駄を削減してきたこの3年ですが、無駄なように感じるところにこそある将来の糧を見直してコロナ後の教育を進めて欲しい。

○いろいろなご意見があるとは思いますが、体育祭、発表会では、子どもたちはマスクなしで取り組ませてあげたかったという思いが残っています。

○コロナ禍の様々な変化を最前線で試行錯誤していただいて担任の先生方を始め、先生方に深く感謝しております。私たち保護者は保護者で、自分たちにできることは何なのか。それを考え続けていきたいと思っています。



○色々な行事が縮小されたり、無くなったり、形を変えてしまったりと、感染が拡大しないようにとの対処だとは思いますが、可哀想でなりません。遠足や課外活動、通常通りされている学校もあります。

○友達と表情を見て話しをしたり、ご飯と一緒に食べる何気ないことを子どもが普通にできる生活に戻って欲しいと思います。

○何もかも自粛であった世間の様子から動き出しそうになっています。コロナ禍であってもできるPTA活動やおやじの会の活動を考えて欲しいです。

○もしマスクをしなくてよくなっても、一斉に解除というのは、やめて欲しいです。

○感染症対策など気を遣う中、今年度は行事などたくさんの活動ができてよかったです。子どもたちの成長を感じる機会が増え、親としてもありがたいです。

○コロナの中でも対話をできるだけ重視する学習や取組を行っていただきたいと思います。

○GIGA端末を使つての宿題が増えており、万が一学級閉鎖になったとしても、子どもが自分で操作してオンライン授業が受けられるというのは、安心でありがたいです。

⇒**今年度は、コロナ禍の中でも、できる形・方法を考えながら、学習や行事を進めてまいりました。保護者の方や地域の方々に、たくさんご協力いただいたことに感謝いたします。来年度は、コロナ禍前の取組も踏まえ、新たな取組も実践していきたいと思います。また、学校評価アンケートの項目・選択肢についても、来年度改善していけるよう検討していきたいと思います。今後も、皆様からいただいたご意見も参考に、仁和教育を進めていきたいと考えています。たくさんのご意見ありがとうございました。**

<学校運営協議会理事の皆様より(一部抜粋)>

・学校評価アンケート結果を通して、学校ばかりが改善をしていくのではなく、家庭でも考えていかなければならないと思います。

・学校と家庭が協力してやっていくためには、どうしたらよいか。建設的に考えていけるようにしたい。

・この学校評価アンケートで、学校が聞きたいことが本当に聞けているのでしょうか。前向きに進んでいくために、アンケート項目自体の改善を考えていったほうがよいのではないのでしょうか。

・教科担任制について、少し反対の意見もあるが、全国で令和4年度から高学年で導入されている制度。仁和が独自で取り組んでいることではないことを知らない人が多いのではないのでしょうか。

・教科担任制を実施してみても教職員の生の声も聞けるとよい。

・教科担任制を進めているが、先生によって教え方は違うもの。両方のクラスを教えることで、同じ教え方・板書の仕方などになり、クラスにより差が生まれないのでよい。

・久しぶりに商店街で、児童の皆さんが、見学や体験学習をしている姿を見かけて、あるいは、区民運動会で授業以外で、子どもたちやご家族が学校で活動している様子、それを通りすがりのお年寄りが眺めている様子を見て、「本来の仁和の景色が戻ってよかった。」と思いました。

・大人は、子どもに「挨拶をしなさい」と強要しないで、挨拶しやすい場の空気、子どもたちとの関係性を作る努力をすべきです。挨拶問題は、どうも大人側の課題であるような気がしてなりません。